

た か し



<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

「学びを広げる春」にするために

校長 本橋 忠旗

早いもので2月を迎えようとしています。2月3日は「節分」、2月4日は「立春」となります。寒さ厳しい日が続いていますが、季節は少しずつ春に向かっていきます。

さて、高四小では、言語活動の充実に向けて学校図書館を活用しています。現在の蔵書数は、11,375冊で、今年は328冊の本を購入しました。1、2、3年生は週1回の図書時間を設け、図書の貸し出しとともに教科書に掲載されている本や関連する本の紹介をしたり、読み聞かせをしたりしています。また、学年に応じて、ブックトークやゲストティーチャーを招いたストーリーテリング、年に2回の読書月間の設定、図書委員会による読書の啓発活動も行っています。

図書館の蔵書は、日本十進分類法にもとづき配架されています。この分類法は、すべての知識の総体を9つに分け番号(1:哲学・宗教 2:歴史・地理・伝記 3:社会科学 4:自然科学 5:技術 6:産業 7:芸術 8:言語 9:文学 どこにも属さないものは0:総記 E:絵本)を割り当てる仕組みになっています。貸し出しはパソコンで管理され、児童の読書傾向が把握できます。

令和4年度の貸出実績トップ3を調べてみると、1年生は、E類(31.5%)、9類(30.5%)、4類(19.1%)、2年生は、9類(41.4%)、4類(20.8%)、E類(17.3%)となっています。E類と9類が入れ替わりますが、各類の割合も高いことから読書傾向が共通していることが分かります。3年生は、9類(58.4%)、4類(18.4%)、7類(4.5%)となっています。9類の人気の高い一方で、7類が登場したり、2位以下の数値が下がったりしていることから、多くの分野に読書の幅が広がっていることが分かります。4年生では、9類(56.0%)、4類(11.8%)、2類(6.7%)、5年生では、9類(60.8%)、4類(10.3%)、3類(8.2%)、6年生では、9類(49.9%)、4類(16.4%)、5類(3.0%)となっています。中学年以降は、9類への根強い人気がある一方で、7類、2類、3類、5類への読書の幅が広がっていくことが分かります。

こうした読書傾向の変化の背景には、学校図書館司書や学校図書館部を中心とした先述の取り組みがあります。他にも、図書館ボランティア、朝の読み聞かせボランティア、保護者向け読み聞かせ講座の講師の先生など多くの皆様にご協力をいただいています。

ところで、自分の頭で考えて、成長するためには、「自分の中に新しい情報や知識を取り込むことが大切」と言う人がいます。その方法は、「本・旅・人」だそうです。「本」は、歴史・文学・思想・科学など人間の知の結晶を学び、「旅(現場)」は、そこでしか分からない真実を身をもって体験することで理解のレベルを上げ、「人との出会い」は、その交流から新しいアイデアが生まれやすくなると言っています。

学校生活では、「学校図書館を活用した活動」「社会科見学等の実地見学の活動」「ゲストティーチャーや仲間との交流による活動」を年間計画の中に織り込みながら学びを深めるようにしています。

インターネットを使えば、短時間で手軽に情報が手に入る社会になりました。しかし、得た知識を関連付けて考えたり、想像力を働かせたりしたことは、生活の中で生きる力を育てていくうえで重要なことです。まずは、心に残る本と出会う機会を今後も大切にしていきたいと思っています。

来る春を前に、私たち大人も「本・旅・人」を意識して、日常生活の幅を広げてみることもいいかと思えます。図書館や書店のまだ手を伸ばしたことの無い書棚に手を伸ばしてみたり、ぶらりと近隣の史跡旧跡へ出かけてみたりしながら、世界観を押し広げてみたいと思う2月の始まりです。